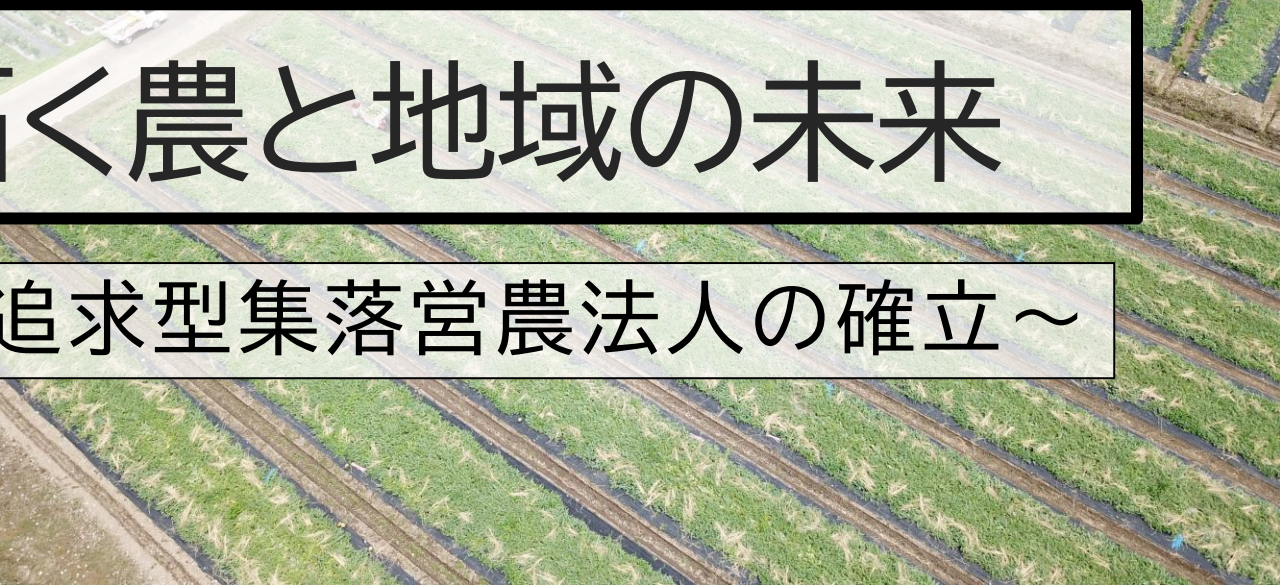




農業経営で切り拓く農と地域の未来

～スイカ栽培導入による利益追求型集落営農法人の確立～



JAみなみ魚沼
上村 秀也



INDEX

目次

- 01 集落営農のあるべき姿
- 02 集落営農の現状
- 03 現在の集落営農の問題点
- 04 これからの集落営農の答えは
法人化とスイカの導入
- 05 JAみなみ魚沼がやるべき事項



01 集落営農のあるべき姿とは

歴史 結(ゆい) ⇒ 機械共同利用 ⇒ 転作統合 ⇒ 法人化
目的

農業の維持、農地の維持を通じて地域の維持管理をすること

役割 ... 目的を達成するための手段

農地を守るために集落に住む人々が協力して農に取り組み
農地を維持管理すること

具体的な役割(4つ)

- ① 協働による生産性の向上 ② 地域資源の有効活用
- ③ 持続可能な農業経営 ④ 教育・情報の共有



INDEX

目次

- 01 集落営農のあるべき姿
- 02 集落営農の現状
- 03 現在の集落営農の問題点
- 04 これからの集落営農の答えは
法人化とスイカの導入
- 05 JAみなみ魚沼がやるべき事項



02 現状の集落営農とは①

みなみ魚沼管内の集落営農の実態

地	法 人		任意組織
	農事組合法人	任意組織	
大			
六日			
塩			
湯 沢	4	1	1
合 計	83	20	32

※農事組合法人＝集落営農法人
※南魚沼市・湯沢町は240集落

	役員	従事	平均	栽培	営農
法					
法					
法人C	3	12	72.0	19.0	-
法人D	5	3	64.2	14.0	○

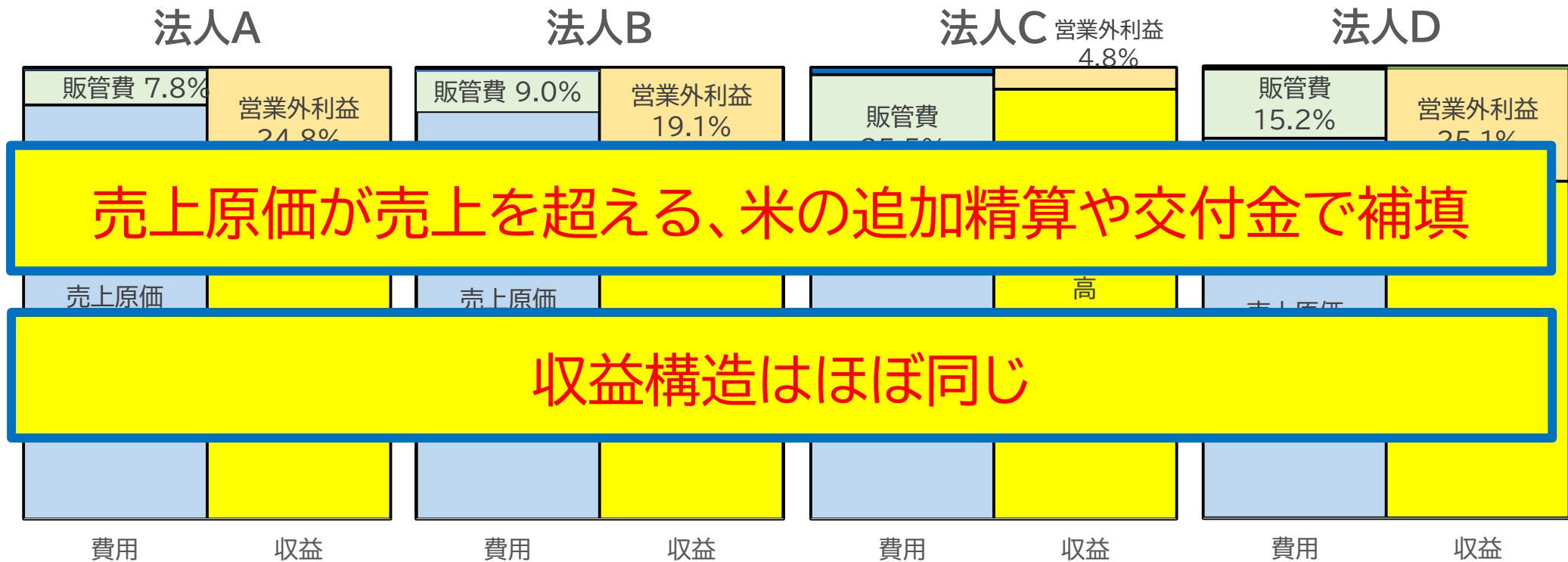
②法人の平均年齢は64.2
～73.4歳 ⇒ 高齢化

注:ヒアリングなどを通じ筆者作成



02 現状の集落営農とは②

収支構造



※費用の合計が100%にならないのは営業外費用・特別損失などがあるため



02 現状の集落営農とは③

南魚沼市の農業者の推移

副業的農家… 1 年間に 60 日以上自営農業に従事している 65 歳未満の世帯員がいない農家(主業農家及び準主業農家以外の農家)をいう。

調査年	農家数(戸)						
	総数	主業農家		準主業農家		副業的農家	
2010年	4,437	361	8%	1,047	24%	3,029	68%
2015年	3,777	371	10%	909	24%	2,497	66%
2020年	2,985	291	10%	612	21%	2,082	70%

農家数自体は全体的に減少傾向にある、副業的農家の比率が高い



INDEX

目次

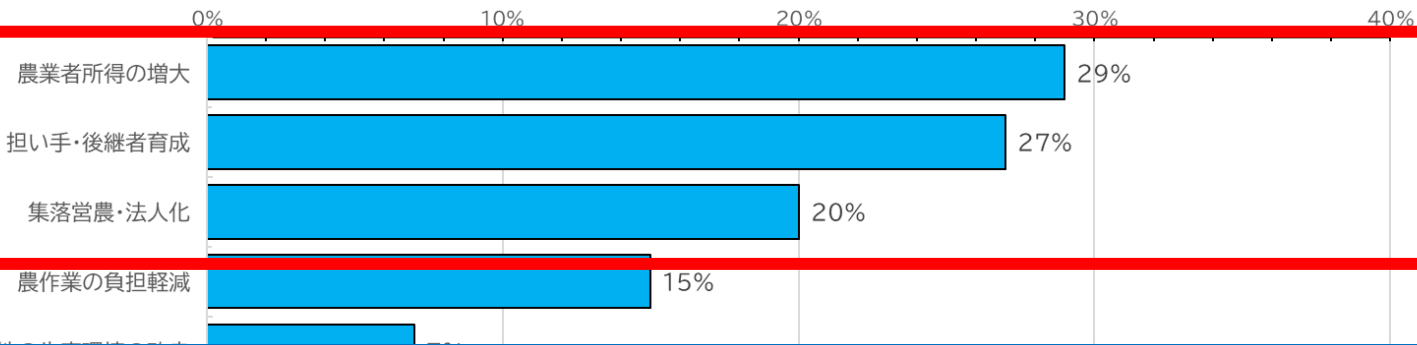
- 01 集落営農のあるべき姿
- 02 集落営農の現状
- 03 現在の集落営農の問題点
- 04 これからの集落営農の答えは
法人化とスイカの導入
- 05 JAみなみ魚沼がやるべき事項



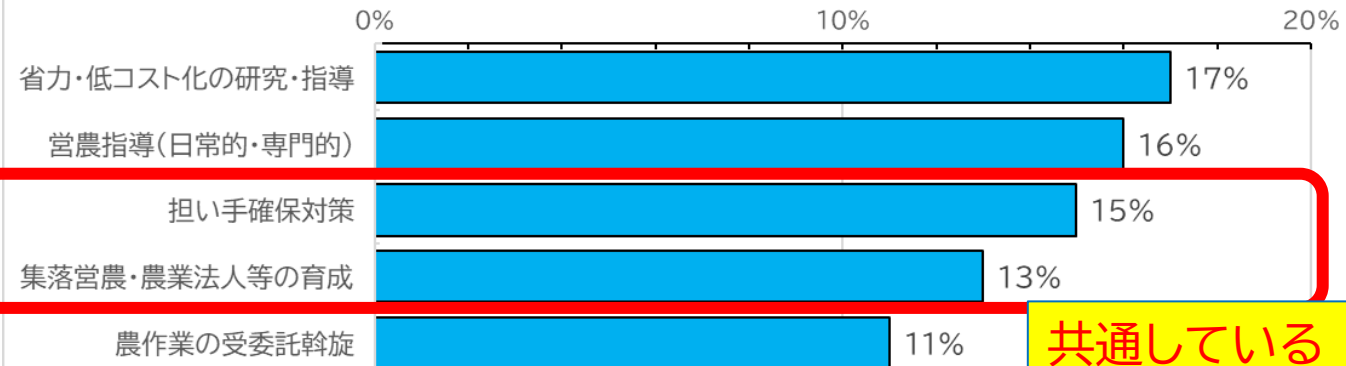
03 現在の集落営農の問題点①

管内の農家が求めていること

あなたの地域が今後農業を継続していくためには何が必要だと思いますか？(複数選択可)



管内の農家の多くが今後の農業継続に対して集落営農に期待している



共通している



注:JAみなみ魚沼第2次中期計画策定に伴う組合員アンケートの結果を筆者加工

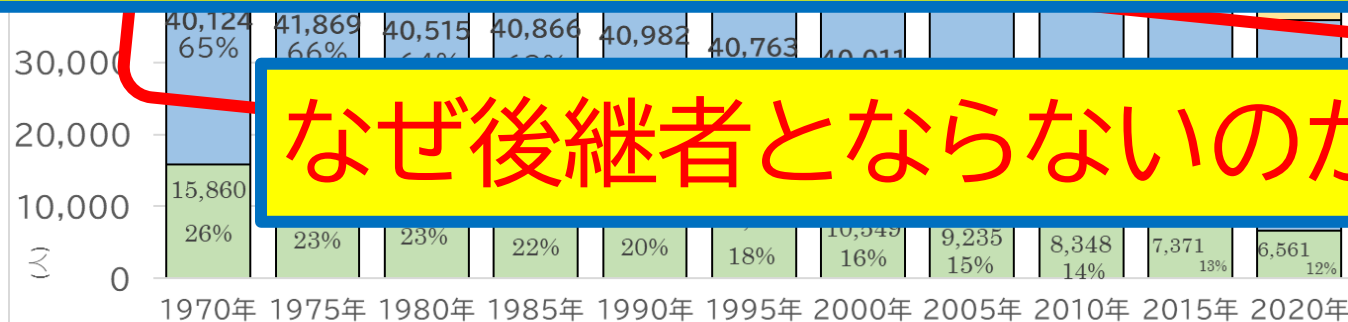
03 現在の集落営農の問題点②

集落営農法人へのヒアリングの実施 Q.集落営農最大の課題は？

▶A.【**後継者不足**】 ※2法人に対してヒアリング

『考察』そもそも中核人材の後継者となる年代の人口の数は？

後継者となる年代の人口自体は多い！



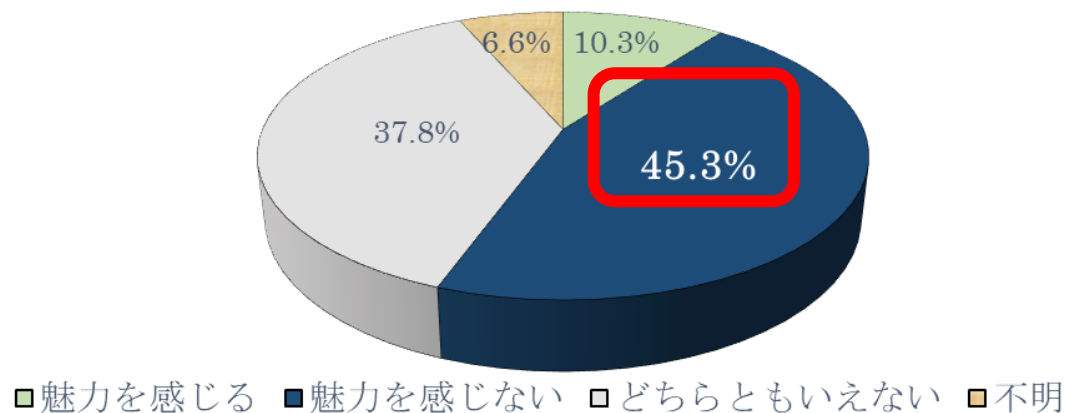
なぜ後継者とならないのか？



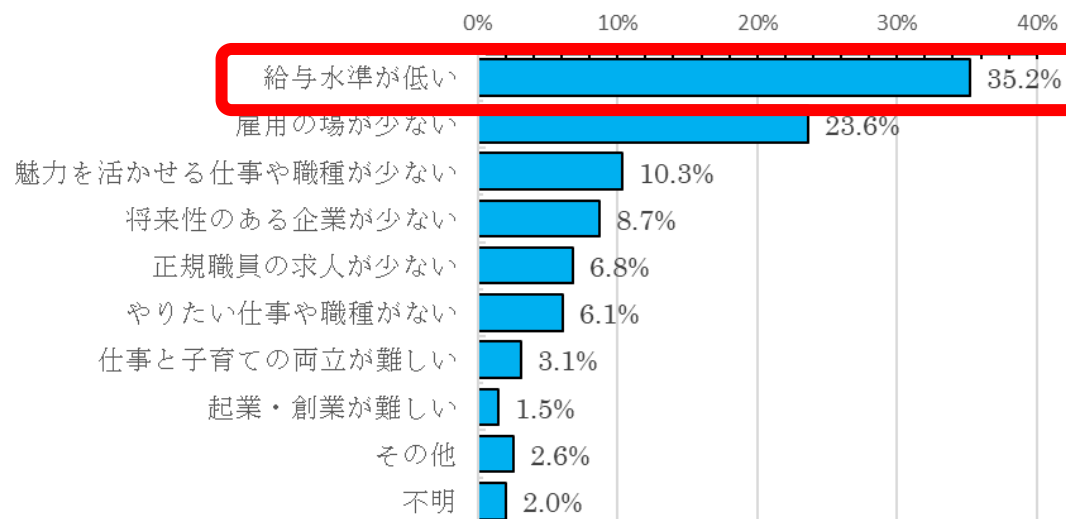
03 現在の集落営農の問題点③

後継者とならない原因を「南魚沼市まちづくりに関するアンケート」から探る

働く環境として、南魚沼市に魅力を感じますか？



「魅力を感じない」理由(1つだけ選択)



給与水準が高ければ働く環境として魅力があるという整理できる

03 現在の集落営農の問題点④

I 南魚沼市の給与水準は低いのか？

	平均年収(万円)
南魚沼市	349

南魚沼市は平均年収349万円

なぜなら集落営農の目的が

農業の維持、農地の維持を通じて地域の維持管理すること

つまり

集落営農法人の後継者になるよりも他の職業の方が給与水準が高いため後継者にならないといえる

利益を出す構造になっていない



11

INDEX

目次

- 01 集落営農のあるべき姿
- 02 集落営農の現状
- 03 現在の集落営農の問題点
- 04 これからの集落営農の答えは
法人化とスイカの導入
- 05 JAみなみ魚沼がやるべき事項



04 これからの集落営農は法人化とスイカ 栽培の導入①

なぜ法人化すべきなのか？

- ① 農地の賃貸借契約の合理化
- ② 税金対策
- ③ 融資の受けやすさ

経営の安定化

伝統的な高収益作物



なぜスイカなのか？

JAみなみ魚沼の特産品であるため

- ・栽培技術が確立している
- ・販売の出口が整っている

南魚沼の風土を活かし、味にこだわった、代表的な特産野菜

八色西瓜生産組合の取り組み

水はけのよい火山灰土壌と昼夜の温度差が大きい
盆地特有の気候が、大ぶりで甘味の強い西瓜を生みだします

大正末期から昭和初期に新潟県南魚沼市（旧大和町）
三用地区を中心に稲作の複合品目として栽培が始まりました。

その後、戦争での中断を経て、昭和23年に栽培を再開し、
昭和56年に『八色西瓜生産組合』が発足して以来、共同選果により
高品質の確保と、栽培技術の改良・普及、販売促進を実践しています。

令和4年現在、南魚沼市、魚沼市、湯沢町の農家104戸・面積83haで栽培しており、
新潟県内のスーパーや地元直売所で買うことができます。関東方面にも出荷されています。



13

04 これからの集落営農は法人化とスイカ 栽培の導入②

収入	内容						備考
	収量(俵)	計	品種名	60kg単価	俵	金額	
粗収益①	136,800		コシヒカリ	@18,000	6.4	115,200	副産物⇒くず米 10a、当たり2,400円とする。
			こしいぶき	@12,000	1.6	19,200	
			副産物			2,400	

内 容							備考
項目	計	資材名	数量	単価	金額		
種苗費	1,000	種子代	2	500	1,000		

水稻10aあたり67,876円

光熱動力費	6,457	軽油	7	154	1,078	
		ガソリン	7	174	1,218	
		混合油	6	300	1,800	

賃借料	
土地改良費	
減価償却費	
修理費	
租税公課	
支払地代	
労働費	
費用合計	
家族労働費相当	
所得	

10aあたりの収支構造は？

	項目	金額	備考
収入	販売金額	945,000	630玉×1,500円
		75,600	消費税
	雑収		
費用	合計(収入)		
	種苗		
	肥料		
	農薬		
	単年度		
	減価償却費		
	動力光熱費	20,000	機械燃料代
	西瓜組合費	3,000	年会費:3,000円
			(×30%※)

スイカ10aあたり464,807円

単純な利益ベースで7倍を超える



04 これからの集落営農は法人化とスイカ 栽培の導入③

数量推移

12,000,000
10,000,000



スイカの販売根拠

全国的に品薄になり、かつ単価が上がり始めている時期

令和4年 令和5年 令和6年 3年平均

販売量増加できる余地あり

200

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

令和4年 令和5年 令和6年 3年平均

単価円/kg

200
180
160
140
120
100
80
60
40
20
0

15

INDEX

目次

- 01 集落営農のあるべき姿
- 02 集落営農の現状
- 03 現在の集落営農の問題点
- 04 これからの集落営農答えは
法人化とスイカの導入
- 05 JAみなみ魚沼がやるべき事項



05 JAがやるべきこと①

集落営農サポート課の設立



①複合営農ビジネスモデルの提案

集落営農にスイカ栽培を導入した経営モデルの提案

②経営サポート

(1)技術指導 ・専属営農指導員2名による現地指導及び巡回

(2)出資 ・1ha以上の作付けを条件に1年目の経費補助

【各100万円を上限】・中核人材の後継者への大型特殊免許の取得経費の補助

(3)労働力サポート ・JA職員アルバイトシステムの導入



注:筆者作成



05 JAがやるべきこと②

人員配置と年間業務

I 人員配置

管理者	課長(総括・7名の行動管理) 農業経営アドバイザー資格の保持		
人 員	課長代理(各地区への管理、職員アルバイト管理)		
	塩沢・湯沢エリア	2名	最低8名体制
	六日町エリア	2名	
	浦佐エリア	2名	
※地区担当は現地巡回及び指導に従事			

II 年間業務

業務/月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
作業内容	集落営農巡回、スイカ指導、アルバイト調整、スイカ推進											



III 利益追求型集落営農法人 損益計算書モデル

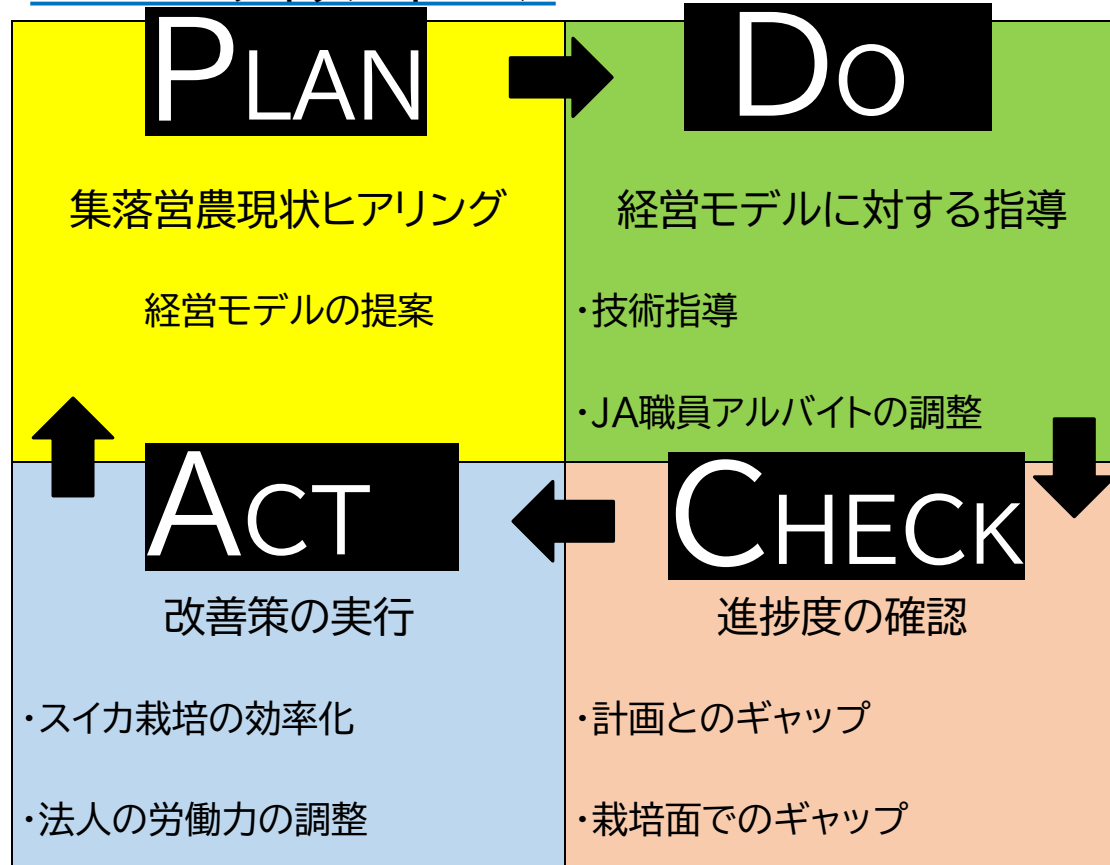
損益計算書		
売上高	22,101,664 16,416,000 38,517,664	スイカ 2ha (密閉栽培80%,整枝栽培20%) 水稻 12ha (コシヒカリ80%,こしいぶき20%)
売上原価	29,473,066	スイカ製造原価: 12,518,176 水稻製造原価: 16,954,890
売上総利益	9,044,599	
経常利益 10,459,177		
(円)		

経常利益1,000万円を超えるモデルを提案



05 JAがやるべきこと③ PDCAの実施 KGIとKPIの設定

I PDCAサイクルイメージ



II KGIとKPIの設定

Key Goal Indicator
10年後の目標 30法人
2,700t

スイカでの農業産出額:
5億7千万円

Key performance Indicator
3年以内を目標
①説明会の実施(初年度)
②3エリア3法人の選定(初年度)
③経営検討会の実施(初年度)
④圃場の選定(初年度)
⑤モデル経営の実施(2年目) (スイカの導入)
⑥6法人へのスイカ導入(2年目に+3法人)
1法人12,888玉(約90t)の 出荷量

①⇒②⇒③⇒④⇒⑤⇒⑥ = KGI

※JAみなみ魚沼の現状の販売高大玉小玉合わせて約5億円

注:筆者作成



集落営農法人の今後の課題設定

冬季の事業展開

水稻育苗ハウスあり

⇒ **葉物類** 大崎菜、小松菜、リーフレタスなど

水稻育苗ハウスなし

⇒ **根菜類** 雪下野菜、雪室野菜



まとめ①

JAのメリット

- ①組合員との信頼関係の再構築
- ②スイカ選果機の稼働率向上
- ③農を通じた職員教育

JAの総合事業の利用高向上に繋がる



まとめ②

おわりに



集落営農法人にスイカ栽培導入し利益追求を求めることで、中核人材の後継者確保がなされ、さらにJAの徹底した支援により、農業と地域社会の未来を農業経営で切り拓くことが可能となるだろう。

すなわち、

組合員とJAの真の協同は、どんな壁をも打ち破る。

▶不可能が可能となるのである。

ご清聴ありがとうございました

